

年頭のご挨拶

皆さん、新年明けまして、おめでとうございます。今年は元旦から静かで清々しい日が続き、皆さんとともに新年をお祝いすることができ、誠に喜ばしい限りです。

まずは、お集まりの皆さん、横浜国立大学の教職員の皆さんに昨年1年間のご尽力に感謝申し上げます。

なんといいども、昨年春は、記憶に長く残る東日本大震災、その翌日に予定されていた個別学力試験、4月の新年度からの組織改編・新部局の立ち上げと、大変なことが重なりました。皆さんにご負担をおかけしました。おかげさまで、無事にといえますか、予想以上の対応ができたと思っております。改組等に関しては、受験生が増加し、他大学等からの見学・問い合わせも多く、学外からも高い評価をいただいております。正直なところほっとするとともに、本年は、さらに充実させていかなければならないと思っております。

年末に2012年度の運営費交付金の内示をいただきました。国立大学全体として予算額が縮小する中で、改組等への反映ということもあり、本学にとってはしばらくは安定的な状況となる内示でした。本学が一体となってここ数年努力してきた組織改編と新大学院の設置、先進的な教育研究プロジェクトの企画・推進が反映されたものであります。理想から見れば満足できる数値とは言いがたく安心感があるものではありませんが、業務を工夫をすれば新しいことにもチャレンジできる内示額であったと思います。

さて、昨年、職員を中心とする学びのひろばにはたくさんの方々が参加いただき、建設的・前向きな意見も多く出され、一部は実行に移されております。私が話題提供した際に「学長はもっと積極的にナンバーワンを目指してください」という頼もしい意見も出されるなど、本学の精神でいう「先進性」「実践性」へ意欲的な姿勢に感心させられました。このような意気込みを最初から100%の完璧さ期待することではなくて結構ですので、着実に形にしていくことが、教学へも良い影響をもたらすと期待しています。

震災により大きな話題とはなりませんでした。3月から構内へのバス路線が新設されました。構内を路線バスが走っている光景や近隣の方々が構内のバス停にいる姿は、単に学内関係者が便利になったという以上の変化をもたらしました。キャンパスが公共的空間であることを教えられました。これまで大学の構成員の方々は、内向きに、どちらかというと自分たちの建物を中心に利用や管理をすることに専念できたのですが、これからはよりオープンな空間として、いろいろなことを判断していくことになったと思います。大学に求められていた社会・地域との連続性・一体化を推進するチャンスでもあるでしょう。

今年、敷地のほぼ中央に学生支援センターがオープンします。分散していた学生・学びの支援をする様々な窓口を集中・充実させるものです。心の悩みを抱えた学生、キャリアサポートを必要とする学生が増加していることに対応させるものであり、合わせて学務・教務系の窓口の一元化も促進するものです。これを機会に、学生関係データの電子化・教職員関係業務データの一元化と連動させるなどし、業務の整理統合などをお願いします。日常性の中での業務の見直しよりも、組織が改まる機会の方がやりやすい点も多く、担当職員の方々の意見を積極的に聴取し、実行してください。

横国で働く教職員の皆さんが、余裕をもって仕事をさせていただくことが、必ずや学生たちへ良い影響を及ぼします。本学が輝きのある大学となるべくご尽力をお願いして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

最後になりますが、本年は東日本大震災の「復興元年」としなければなりません。本学も教職員・学生が最大限の支援をはかり被災地の皆さんの穏やかな暮らしが一日も早く戻ることを祈念しています。

平成24年1月4日

横浜国立大学長

鈴木邦雄